

報告日  
令和7年9月2日

報告回次  
3日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	下妻市役所			代表者名	菊池 博
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	DX推進課	連絡先電話番号	0296-43-2117
担当者役職	主幹	担当者氏名	芦ヶ谷 悠平	連絡先E-mail	
住所	304-8501 茨城県下妻市本城町三丁目13番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	地域DXを盛り込んだ行政改革プラン改定		
概要	行政改革プラン（DX推進計画）を改定するにあたり、市幹部職員等への地域DX推進の考え方や方向性など機運醸成を行いたい。 また、地域DXに繋がる施策を検討していくための、助言をいただきたい。				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 計画策定支援				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	478	令和7年8月29日	フォローアップ	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年8月5日	フォローアップ(実地)	13時30分	15時30分	
				活動時間（分）	120

2-2.

派遣場所	会場名	下妻市役所	最寄駅	下妻駅
	所在地	茨城県下妻市本城町三丁目13番地	最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	生成AIやインターネット、オンラインの研修では得られないライブ感のある対面研修がとても良かったです。 職員の反応や顔色に応じて研修の内容が変化していくので、対面研修でしか得ることのできない大きな満足感があります。積極的な職員ほど、前を向いて大きく頷きながら研修に参加している姿がよく分かりました。 昨年に引き続き2年目の研修ということで、昨年よりも踏み込んだ内容の研修が受けられました。 今年度は、昨年の参加者から要望があった管理職研修を実施し、管理職研修の様子を報告したことで、DX推進リーダーのモチベーションアップにつながりました。
アドバイザーへの要望事項	下妻市へ来てくださってありがとうございます。これからも継続して研修をお願いしたいです。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	40人	
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	40	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	・市職員からの地域DX推進に関する積極的な提案やアイデアの不足 職員が、下妻市の未来を見据えた仕事の仕方ができておらず、地域DX推進を行う土台ができていない。 ・地域住民や民間企業との連携・協力体制の構築不足 職員の巻き込む力が不足していて、組織横断的な取り組みができていない。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	職員が、市政ビジョンを念頭に置いて日々の業務ができるように意識改革を行う。職員一人一人が、管理職と円滑なコミュニケーションを築き、さらに部署や組織を越えた協力関係を作り出して、地域DX推進に取り組みやすい土台を作る。 行政改革プラン（DX推進計画）を改定するにあたり、地域DX推進と市政ビジョンを意識した施策のアイデアを職員が提案しやすい環境作りを行う。



アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的に記入下さい)	職員の「働き方の意識」、「周囲を巻き込むコミュニケーション」について支援を受けた。 職員の本来の仕事とは何かという問いから始まり、日々の業務で市政ビジョンを意識する働き方を学んだ。 下妻市の未来のために、地域DXを意識して、持続可能な市を作らなければならない。 地域DXは、単独部署では完結せず、複数の部署・外部との連携が不可欠である。 組織横断的な取り組みを実現するために、周囲を巻き込む「巻き込み力」が重要になる。 感謝を伝えるときは、時間を置かずにすぐに感謝を伝えること。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)	正規職員は、会計年度任用職員と同じ目線で働いてはダメで、市の未来を意識し続けなければいけないと強く感じた。目指すべき姿(市政ビジョン)を意識し、現状を見つめることで、課題が浮き彫りになるという考え方を学び、日々の業務に活用することができている。特に、昨年度の教えである、市民サービスを向上させるために残業して頑張るのではなく、効率よく作業して時間を作るようにするという考え方と、今回の学びが結びついて、市民サービスを向上させるために、窓口の開庁時間を短縮するという改革が実現目前となっている。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
	地域DX推進の内容を盛り込んだ行政改革プラン(DX推進計画)は改定中。 窓口開庁時間の短縮も提案書を作成中。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください)	今回の研修を受けて、DX推進リーダーのあるべき姿や行動指針が明確ではないと気が付かされた。 今後、DX推進リーダーに求めることや行動指針を明確にし、組織横断的なDX推進体制を強化していく。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 研修全体の理解度(非常に理解・ほぼ理解)100% 研修で意識に残った内容(複数選択)「市の未来と自分の業務がどうつながるかを常に意識する」78.6% 今後取り組みたいDXアクション(複数選択)「関係部署との連携・情報共有」71.4% 研修に参加した全員が非常に高い理解度を示し、市政ビジョンを意識した働き方や、今後巻き込み力を使った組織横断的な連携に取り組みたいという意識変化が確認できた。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
	令和7年度末までに、DXで解決できる地域課題の洗い出しと課題を解決する施策を行政改革プランに盛り込む。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	市民サービス向上 オンラインで申請できる行政手続きを増やすことで、市民は自宅や外出先からスマートフォンを使って行政手続きを完了できるため、市役所への訪問や書類の提出のためにかかる時間と手間が大幅に削減される。 市民とのつながりの強化 市と、市民がSNSを通じて双方向通信を行うことで、市民一人ひとりの状況に応じた情報を発信したり、今まで以上に寄り添った対応をしたりできる。また、災害発生時に、特別な配慮を必要とする人々に迅速に対応することが可能になる。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/)

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

